

て賤たさいふこまなごは今の私共の學んでよい點であらう
と思はれる。

五

武士の家庭では何時如何なる時でも、いざ戦争さいふ場
合を目あてにして、それに役立てる様に賤たものであつ
た。従つて忠義の精神を中心としたのは言ふまでもないが
約束を重んじたり、恥を飽くまでも受けない様に仕向けた
りした事は言ふまでもない。日頃から質素な生活に慣れさ
せたり、寒さや、飢に對して耐へ忍ぶ習慣をつけたりする
様にしたのもこの目的から來てるるのである。従つて武士
の賤の中では常に剛毅と柔順とが手を結んで隣り合つてゐ
たし、死をおそれないこと、命を大切にすること、一
つの精神の二つの面として考へられてゐた。さうして、
かうした精神的な魂の修練とも言ふべきものが實は學問や

始めの賤

始めが肝心さいふこまは賤をしてゆく時殊に強く言はれ
てよい事と思はれます。家庭から幼稚園さいふ社會に入り

武藝の稽古にも家の中でのさゝやかな言動の端々にも、満
ちてゐるやうに仕込まれて、その日くを目に見えぬ戰場
として暮す事になつてゐたのである。

この様に考へて來るに武士の子供の賤は大人の生活の中
から自然に生み出されて來るのであつて、此處にも大人の
生活全體が武人らしい簡素さと單純さを以つて立派に教育
的な力を備へてゐたのである。わざとらしい、あたかも活
花、切花の様な行儀や賤が特別に仕立てられてゐたわけ
はない。だから子供はいつでもその子供らしさを手ばなし
に、無制限に歓迎される事は全くなかつた。子供の内から
大人へ大人へ急いだのである。さうして、そこにも、そ
れほぎの意味に於ての『子供』がなほ且つ見出されてゐたの
である。

附屬幼稚園 清水光子

たてには、子ぎもの小さい心はさぞ新しい事、珍しいこと
で忙しいでせう。始めて大勢の世界に入つた事が何よりも

大變な事です。獨りなら、又家庭でなら許されてゐた事が大勢の中での自分さいふ事で抑へられる事が出て來ます。

この點が、幼稚園の始めの躰の一つの大事な所ではないかと思ひます。團體生活をしてゆく氣持の基礎はこゝでしつかり養はねなければならぬと思ひます。がその抽象的な考へはさておき、具體的にはまづほんの形式的な事から躰けてゆくことになります。そして團體生活としての幼稚園の毎日を軌道に乗らせるやうにしてゆき度いと思ひます。らくに、本當に自然的にすらくさせ度いと思ひます。私のほんの浅い經驗の中から氣がつかました事を少し書き出してみます。

(一) 挨拶について

朝「おはやうございます」をします。清新な子どもの氣持をこれに表して文字さほりさびこんで來るこの挨拶です。形式にこだわるのではありませんがきちんさせませう。こちらもちやんさおはやうございます受けたいと思ひます。お歸りのさやうならごきげんやうより大事な挨拶かも知れません。

お食事前の兵隊さんありがたう、いただきます、や濟んでからのごちさうさま、言ふまでもありません。これは一緒に食事する大人の態度が本當によくうつると思ひます。

お歸りの挨拶もさうです。明日又………ご歌はなくて

もいゝからこの時は靜によく落付いてするやうにし度いと思ひます。

その他、始めから躰度いのは「ありがたう」の言葉です。何でもしてもらつた時に素直にありがたうを言ふやうに機會を捉へてはきかせ、同時に大人が言つてみさせませう。

(二) 手洗ひ、うがひ等について

よくこすつて手を洗ふ、ていねいにうがひするのは言ふまでもありませんがそれと一緒に水の出し方、捨て方、ふき方をもちをけ度いものです。人のじやまにならないやうにして、自分だけきれいになればさいふやうな方は一番排斥されなければなりません。又斯ういふ所に書くのもいかゞかと思はれますが不淨物の使ひ方についてはよく氣をつけねばならないと思ひます。大勢の人ミ一しよの、さういふ場所での作法はこの小さい中に習慣的によくしておき度いと思ひます。

(三) 物の扱ひ方について

身につけるものゝ取つたりつけたりは出来るだけ一人で、人手を借りるのを當然と思はせないやうにし度いと思ひます。始めは下手な所を直してやり、かけにくい所だけボタンをかけてやるさいふ様にして、もう幼稚園の子どもは一人で出来る、さいふ自信を持たせて喜んでするやうにし度いと思ひます。又さういふものを叮嚀に扱ふやうに躰

け度いと思ひます。帽子のゴムひもやエプロンなどをしやぶつたり、上衣を投げたり、手さげ袋をふりまわしたりしないこと、そのやうなくせのある子ぎもは一人一人根氣よく注意します。自分のお道具箱や帖面の使ひ方はその使ふ最初の時に使ふ順序やしまひ方を教へて習慣つけるやうにしませう。きちんさしななければならぬといふやうに、但し神経質でなくさうなるやうにきちんさするくせに、度いと思ひます。幼稚園のみんなで作る用具はみんなの、いふ事で大事に使ふやうに氣をつけませう。ブランコ、滑臺などはももより、繪本、積木等まで、らんぼうに投げたりふんだりしないやうにし度いと思ひます。靜に使つて元氣に遊ぶのがいゝのだといふ事を知らせ度いと思ひます。みんなのものと言つて大切に氣をつけて、しかもそれで樂

本をみる躰

入園したばかりの頃、見送りのお母様はやうやく離れられるやうになつたものゝ、まだお友達と一しよの遊びに入つてゆかれないはにかみやさん、「遊びませう」と誘つて

しく遊ぶ習慣といふやうな事は小さな事かも知れませんが、團結といふやうな氣持の淡いものがこんな所にある様に思はれます。

斯うして考へてみますとみんなに躰の上に環境が大切かがわかつて來ます。よい習慣はよい環境からです。人も環境の内である事は勿論です。

以上は幼稚園に入つた始めについて考へたのですが年がかはつて大きくなつた始めといふのは又躰の上で絶好の機會と言へるかと思ひます。大きい組になつたといふ喜びと自負を一ぱいにふくらましてやつて自重を勵ましを躰へのすべての部分で與へたいと思ひます。

附屬幼稚園 志村貞子

も首を横に振る子供が、「御本をみませう、いらつしやいな」と誘ふと大抵ついてきます。「この御本をみませう」とお返事なし。「これみませうね」。一冊をさりあげてお話をし